

兵庫県西宮市「防災啓発事業」について

背景

阪神淡路大震災から 30 年が経過し、震災の記憶が薄れてきている。また、市民の震災に対する意識、防災訓練への参加率の低下など自助共助に対する意識が低下している。

忘れてはならない記録と記憶を維持していくことが大切である。

具体的な取り組みとその成果（活用状況）

○総合防災訓練の実施

総合防災訓練（防災フェア）を実施

- ・テーマ「防災パビリオン～1.17 から学んだ地域の絆～」として防災資機材、防災備蓄品展示などを行う。また、防災演習ゲームとして生存確率などを地域の協力団体とともに取り込んで行う。

○自助・共助の取組

- ・地域の防災力向上を目的とし、地域への防災出前講座を開催（実地件数 63 件、参加人数延べ 3,613 人）

- ・地域への防災活動支援として訓練計画の立案、訓練用品の貸出し、炊出し訓練用の非常食の提供を行う。（実施件数 109 件、参加人数延べ 7,884 人）

- ・地域の防災計画作成支援として令和 6 年度は 6 地区を支援

- ・防災士研修会として、資格習得に助成した防災士への研修会を実施 26 名参加。防災リーダーの育成などの研修を行う。

- ・地域防災力の向上として

防災シンポジウムを開催

基調講演

「阪神・淡路大震災を振り返って」「安心して逃げることができる社会をつくる」

パネルディスカッション

「避難所でのトイレとこれからの備え」「平時のまちづくりが災害時に活かされる」

467 名の参加がある

・にしのみや防災マルシェ

神戸学院大学、無印良品阪急西宮ガーデンズと共催の防災イベントの実施（約 1,000 名参加）

・防災教育関連授業

地域の街中を歩き、危険予想区域、危険箇所を探し対応策を考える（実施件数 11 件・参加人数延べ 1,765 人）

○小学校区防災訓練の実施

小学校区における防災訓練を実施する。

学校は場所のみの提供。参加協力機関と共同で訓練を開催。この訓練での目的は、乳幼児のいる若い世代や小さいお子さんにも参加してもらう。防災意識を見直すきっかけを提供。

課題について

阪神・淡路大震災から 30 年が経過し、市役所職員、地域で活躍している方や企業のなかで震災の記憶・記録が薄れてきている。防災意識も年々低下している。そのような中でいかに防災力を強化し、自助・共助の大切さ、地域でのつながり・顔の見える関係を築くのが問題である。

防災訓練などに、若い世代や世帯の参加が少なく、高齢者や高齢者世帯の参加が多い。震災の経験者の参加が多いといえる。

以上のことから、自助・共助の大切さより、行政・公助に頼る傾向があると感じられる。

したがって今後、若い世代から高齢者まで、地域の防災訓練に参加し、一人一人の防災意識の高揚、地域コミュニケーションを構築することが大切であると考えている。